

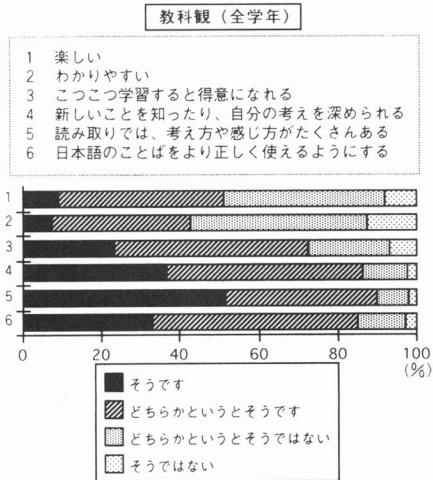
II 国語

「読み書き(そろばん)」と言われるように、国語は、ある意味で全ての教科の基本ともいべき教科である。

この国語に対して、中学生はどのようなイメージを抱き、どのような学習行動をとっているのだろうか。

大切であるが親しみにくい教科

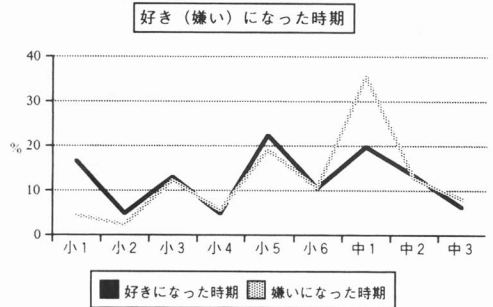
「国語の教科イメージ」が、下の表である。「楽しい」「分かりやすい」といったイメージはそう高くないが、「新しいことを知ったり、自分の考えを深める」など、教科の意義については自覚しているように思われる。



国語が好き(嫌い)になった時期

国語に対する好き・嫌いは、ほぼ半々であるが、「いつ、好き(嫌い)になったのか」についての答えが、右上のグラフである。

小学校高学年と中学校1年生が、好き・嫌いの分節点になっていることが分かる。



好きな学習内容としては、「小説(物語)」「漢字の読み書き」「詩」「短歌・俳句」の順に挙げている。一方、嫌いな学習内容としては、「作文」「文法」が多い。



発表するのは苦手

国語における学習行動の中で、特徴的なことの一つは、「発表すること」への苦手意識である。

授業の中で、登場人物の人柄や心情について話し合いをするようなときに、「どんどん発表する」ような生徒は非常に少なく10%前後なのである。